

実施報告書

2025 年度日系社会次世代育成研修
(中学生招へいプログラム) 第 1 陣
2025 年 6 月 16 日~7 月 9 日



2025 年 9 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

公益財団法人海外日系人協会

目次

1. 日系社会次世代育成研修(中学生招へいプログラム)の概要	2
2. 参加者情報	4
3. 2025年度第1陣 プログラム日程	5
4. プログラム内容	6
5. 引率者の所感	26
引率者 松田 まりえ(ドミニカ共和国) 中田 悟(ベネズエラ)	
6. 総評	28

【参考】2025度「日系社会次世代育成研修(中学生招へいプログラム)」募集要項

1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要

(1) 研修の沿革および目的

本研修は独立行政法人国際協力機構(JICA)が中南米地域への移住者の定着・安定のために移住者子弟教育として 1987(昭和 62)年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012(平成 24)年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015(平成 27)年度からは「日系社会次世代育成研修(中学生招へいプログラム)」として実施しています。

本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティの強化を図ることを目的としています。さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

(2) 対象国および人数

通常:第1陣は5カ国13名、第2陣は5カ国36名の10カ国49名(他引率者2名)

第1陣:カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラ

第2陣:ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン

2025度:第1陣は5カ国13名(他引率者2名)で実施

研修員出身国内訳

受入		対象国	研修員参加者数	備考	引率者
第1陣	5カ国13名 (引率者2名)	カナダ	4名(男0名 女4名)		0名(男0名 女0名)
		メキシコ	2名(男1名 女1名)		0名(男0名 女0名)
		ドミニカ共和国	5名(男1名 女4名)		1名(男0名 女1名)
		コロンビア	1名(男0名 女1名)		0名(男0名 女0名)
		ベネズエラ	1名(男0名 女1名)		1名(男1名 女0名)
		計	13名(男2名 女11名)		2名(男1名 女1名)

(3) 研修期間

現地の学校事情に合わせ、上記(2)のとおり2グループに分けて実施しています。

第1陣:毎年度6月第2~3週から24日間程度

第2陣:毎年度1月第2~3週から24日間程度

(4) 研修概要

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館の見学 移住に関する講義、ワークショップ 各研修員のルーツを探る	JICA 横浜 史跡、博物館等
体験入学	授業出席 部活動 日本の中学生との交流等	横浜市内の中学校
ホームステイ	日本での実生活体験 ホストファミリーとの交流	神奈川県近郊の各ご家庭
研修旅行、 所外研修	神社仏閣・城の見学、日本文化体験、 社会教育施設・博物館等の見学	関西方面、 神奈川県近郊
その他	プレゼンテーション指導 作文指導 研修報告会	JICA 横浜

2. 参加者情報

No.	国名	所属日本語学校名 /所在地	①日本で体験したいこと ②趣味・特技等	得意な 学科
1	カナダ	トロント国語教室 /オンタリオ州トロント市	①中学校体験入学、お菓子工場の見学、神社に行って巫女さんに会いたい、原宿に行ってみたい ②音楽鑑賞、料理、ゲーム、ファッション、水泳、バレーボール	英語 体育
2	カナダ	日加学園 /オンタリオ州トロント市	①日本の季節の行事や学校の体験、他の生徒達と日本語学習についての意見交換もしたいです。 ②バドミントン、読書、日本のアニメ鑑賞、おかし作り	フランス語 社会
3	カナダ	ビクトリアヘリテッジ日本語学校 /ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	①中学校の体験入学、ホームステイ、日本の古い建物が観たい ②コンピューターゲーム、水泳、サイクリング	コンピューターサイエンス、物理
4	カナダ	モントリオール日本語センター /ケベック州モントリオール	①日本の中学生と交流 ②ピアノ、フルート	音楽 数学
5	メキシコ	恵光日本文化館 /メキシコシティ	①日本の家族に会いたいです。いろいろな国の日系人の友達に会いたいです。日本料理、日本の動物、歴史的・現代的な場所についてもっと学びたいです。 ②絵を描くこと、料理をすること、ジムでトレーニングすること	生物学 歴史
6	メキシコ	天理教日本語教室 /メキシコシティ	①日本の文化や食について学び、日本での生活を体験する。 ②チェス、サッカー、フットボール	英語 数学 芸術
7	ドミニカ共和国	ダハボン日本語学校 /ダハボン市	①日本の料理を作る、漫画を描く、有名な所へ行く	言語 芸術教育
8	ドミニカ共和国	ダハボン日本語学校 /ダハボン市	①日本の文化と語に関する知識を深める	英語
9	ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ日本語学校 /サント・ドミンゴ市	①食事と日本の文化もっと学びたい ②フットボール	数学 文化
10	ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ日本語学校 /サント・ドミンゴ市	①日本文化について学びたい、日本人のともだちをつくりたい。 ②柔道	体育 さんすう
11	ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ日本語学校 /サント・ドミンゴ市	①ルーツをすること、日本の文化やでんとうをまなびたい ②アート、絵をかく、マンガ、アニメ、ともだちをつくること、あたらしいところをすること	アート
12	コロンビア	Haru No Hinata /アンティオキア県メデジン	①芸術とコンピューター科学 ②バスケットボール	音楽
13	ベネズエラ	カラカス日本語教室 /ミランダ州カラカス市	①日本の文化を知る	数学

引率者	ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ日本語学校 /サント・ドミンゴ市
引率者	ベネズエラ	ベネズエラ日本語教師会会員 /ミランダ州カラカス市

4. プログラム内容

来日

2025年6月16日(月)

研修員 13 名と引率者 2 名が、カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラの 5 か国から来日しました。

早朝から夜にかけ、それぞれの国から成田空港・羽田空港へ到着した研修員たち。JICA 横浜センターまで、もうひと踏ん張りです！

最後のグループが JICA 横浜に到着した時には、すでに 19 時を回っていました。長旅の疲れもありましたが、初めて顔を合わせる仲間たちと緊張の自己紹介をしました。



開講式

2025年6月17日(火)



前日に顔を合わせていたこともあり、当日朝はすでに友達のような関係になっている研修員の姿も見られました。これからますます、研修員同士の仲が深まっていくことを期待しました。

また、本日からいよいよ研修員としての活動がスタートしました。朝の会では、自分たちでその日の目標を決めて発表しました。初日の目標は「みんなの名前を覚える！」お互い名前を覚えることを通して、友情を育んでいこうという気持ちが感じられる、そんな一日となりました。



開講式では、JICA 横浜センターの植木次長より、この研修における大切な 3 つのポイントについてお話がありました。

- ① この研修が横浜で行われる理由
- ② この研修でみなさんに学んで欲しいこと
- ③ 日系社会、日系人のみなさんに期待していること



研修員の皆さんは、開講式に出席された方々の前で、日本語による自己紹介を行いました。「緊張する！」という声も聞かれましたが、皆さん堂々と、大きな声でしっかりと自己紹介をすることができました。

来日してから2日が経ちました。少しずつ日本での生活にも慣れてきたところですが、お互いをよく知るために自己紹介アクティビティやグループワークを行いました。さまざまなゲームや活動を通して、緊張や不安も次第にほぐれていき、言葉の壁を感じることもありませんでした。気づけば笑顔があふれ、言語を超えて自然なコミュニケーションが生まれていました。



研修員の振り返りから

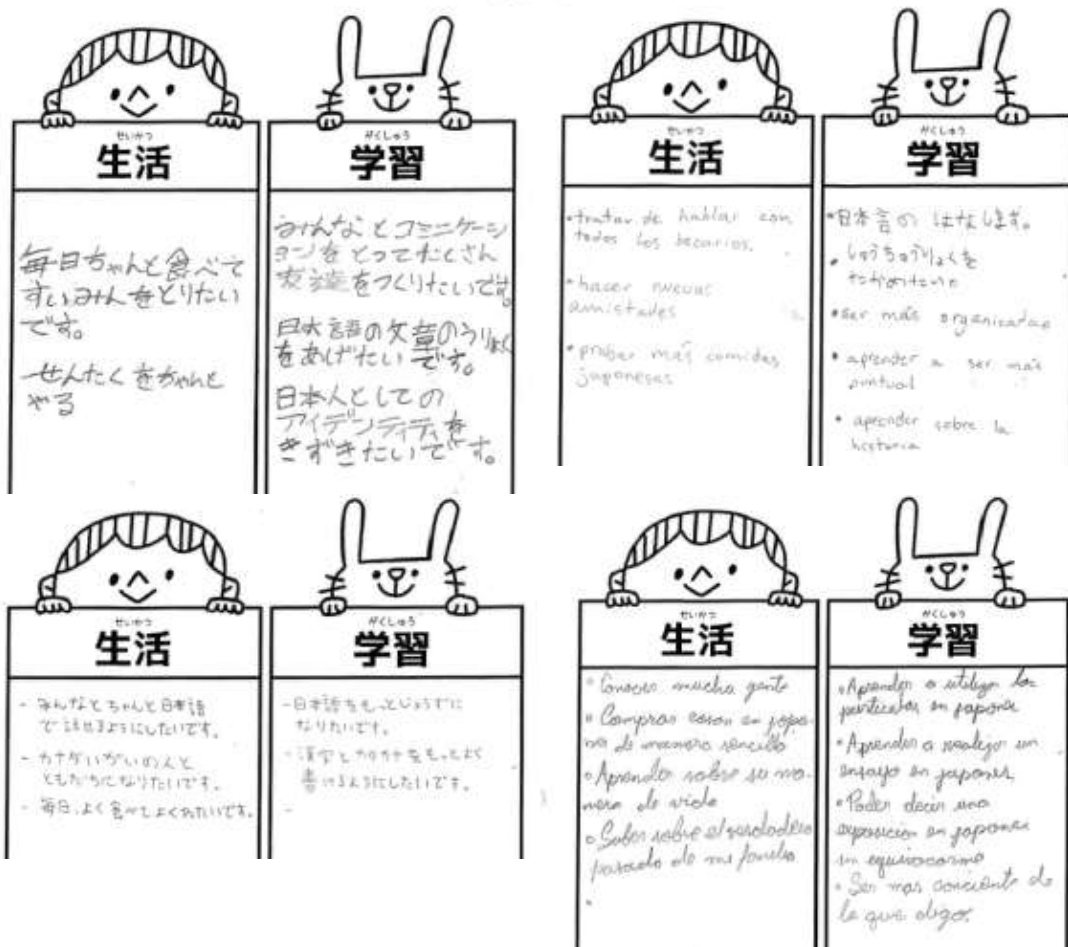
- ◇ 今日の授業はアイスブレイクと中学校体験入学のオリエンテーションをしました。今日授業でやったアイスブレイクであまり仲良くなかった人たちと、とても仲良くなれた気がします。あとはできるだけコミュニケーションをとる事がじゅうようだと思います。1ヶ月後、このグループが毎日しゃべったりあそんだりするグループになってほしいです。
- ◇ 国や言葉の違う他の生徒たちと仲良くなるために、授業の外に（休み時間）声をかけて会話したいです。私はこの一か月後にいっしょうけんめい少しでも日本語を使って、頑張るグループになりたいです。
- ◇ 今日はアイスブレイキングの授業でチームワークの大切さをグループとして学びました。アイスブレイキングに参加したそれぞれのアクティビティーがとてもたのしかったですと思いました。
- ◇ ことばがあまりつうじなくても、おたがいをよくすることができました。きょうはとてもたのしいいちにちで、あたらしいともだちができたのがうれしかったです
- ◇ 私たち全員が理解できる言語を話すことでコミュニケーションをとる。もっと団結して、みんなでひとつのグループになりましょう。

研修目標設定・体験入学準備など 2025年6月18日(水)

- グループ(生活班)に分かれて顔合わせをしました。班長/副班長/パトロール係/先生お助け係/スポーツ係を決めたあと、グループ名をみんなで考えました。



- 一人ひとりが、研修中の目標を立てました。慣れない日本語で一生懸命書いたり、母語で自分の想いをしっかりと書き記したりと、それぞれの方法で目標を表現していました。



- 横浜市中区の公立中学校に体験入学するための準備をしました。

準備 その1 一緒に登下校する仲間を確認！

- 体験入学では、5つの中学校に2~3名ずつ分かれて体験入学でお世話になります。同じ中学校に行くメンバーを確認しました。
- 話し合いを通じて、各グループでリーダーとサブリーダーを決めました。

準備 その2 日本の中学校のルールを知る！

- 日本の中学校のルールについて学びました。
- 自分の国の学校とどんなところが違うのか、また、どうしてこのようなルールがあるのかなどを考えました。
- 日本の部活について学びました。

準備 その3 自己紹介プレゼンテーションを予行練習！

- 中学校では、パソコンや自作の資料を使って自己紹介をする時間をいただいています。本番に備えて、研修の仲間たちの前で一人ひとり予行練習を行いました。
- 仲間のことをよく知る機会になったと同時に、他の研修員の発表を見ることで、自分のプレゼンテーションに足りない点にも気づくことができました。少し手直しを加え、中学校での本番に臨みます。

所外研修

2025年6月19日(木)

日本の伝統文化や習慣、伝統工芸に触れることで日本とのつながりを感じるとともに、環境への取り組みという視点から現代の日本を知る機会として、川崎市立日本民家園とかわさきエコ暮らし未来館を訪問し、所外研修を行いました。

日本文化学習

川崎市立
日本民家園
伝統工芸館

民家園では、まず伝統工芸館で「藍染め」を体験し、その後、日本の古民家を見学しました。続いて、かわさきエコ暮らし未来館を訪問し、日本の環境保全に関する取り組みについて学びました。

伝統工芸館で、ハンカチの藍染体験を行いました。講師の説明を聞きながら、模様の配置や染め方について研修員同士で相談し合い、楽しみながら作業に取り組む様子が見られました。染色液に布を何度も浸し、

空気に触れることで色が変化していく過程に、研修員たちは興味深そうな表情を浮かべていました。完成したハンカチはどれも個性豊かで、「国の友人に見せたい」と嬉しそうに語る姿が印象的でした。

日本文化学習

川崎市立 日本民家園

日本の古い家屋の低い天井や独特な屋根の構造に対して、「かわいい家」「屋根が不思議」といった感想が聞かれました。自分たちの家との構造の違いや、藁でできた屋根を見て、「この家でどうやって生活していたのだろう」といった声もあり、日本の昔の暮らしに対する関心が高まっている様子がうかがえました。



環境学習

かわさきエコ 暮らし未来館

環境対策やリサイクル技術の説明に加え、処理施設を見学し、ごみ処理の流れを学びました。特に、プラスチックごみを手作業で分別する様子に、「自分の出したごみが人の手で仕分けられていることに驚いた」との声が多く、正しく分別するなどごみを出す際の責任を意識するきっかけとなりました。

「今後は分別に気をつけたい」「自国のごみ処理を見直したい」「日本の取り組みを広めたい」といった意見も聞かれ、環境への関心の高まりが感じられました。



研修員の振り返りから

- ◇ 現代のようなテクノロジーがない生活の中で、昔の人はすごく頭良いことがあったと思います。300年以上前に建てられた家お寺や神社を季節の天気変えを考えながら作ったのがすごいと思います。
- ◇ 今日たくさんのことを学びました。あいぞめは本当に楽しく、出来上がりにもとてもまんぞくしています。伝統的な日本家屋の見学も本当にみりよくてきてました。しかし、とても暑かったので、日本の夏の現実をりかいすることができました。また、日本人はひじょうにすぐれたけんちくぎじゅつを持っており、今もなおそれを維持していることにも気づきました。
- ◇ 私たちは今日、JICAから伝統工芸館で日本の昔から作られたお寺とどう建てたかを学びました。午後は、エコ暮らし未来館でゴミの細かい捨て方の大切さなどについてたくさん学びました。
- ◇ 彼らは持っているものを使い、創造的な家を建てるためのアイデアを探してつくりました。例えば水路を作りました。トラックが到着してゴミをおろし、彼らは灰を再利用し、生成された蒸気を燃やしてエネルギーを作り、それがあまったら電気として販売する方法を学びました。

移住学習 第1回目/1限目

移住学習の初日は研修導入の一環として、海外移住資料館の教材「移民かるた(大判)」を使い、アイスブレイクを兼ねたかるた大会を行いました。グループに分かれ、日本人の海外移住の歴史や移住者の生活、日系人の思い、海外移住に関するさまざまな内容を楽しみながら学ぶ機会となりました。

海外移住資料館では、講師がガイドを務め、「クイズでめぐる資料館ツアー」を行いました。展示ごとにクイズやワークを交え、映像や資料を活用することで理解を深めました。事前に家族や親族へ自身のルーツをインタビューしていた研修員も多く、日系社会の知識をもとに展示を見学し、移住者の生活や歴史への理解をさらに深めることができました。



移住学習 第1回目/2限目

2限目の移住学習では、JICA 横浜に海外移住資料館が設置されている理由や、横浜で本研修を実施する意義、さらに横浜と移住との関係について学びました。フィールドワークとしては、JICA 横浜周辺にある移住関連の記念碑や施設を視察しました。研修員にとっては、一部の内容について理解が難しいところもありましたが、日本と日系人との関係について新たな視点を得る機会となり理解を深める一助となりました。

神奈川県庁の屋上展望台から大さん橋や旧横浜移民あっせん所跡、ララ物資の保管場所を望みながら学習を進めました。展望台では、大さん橋を臨みながら自国の国歌を歌う研修員の姿も見られ、日本と自身のルーツとのつながりを実感しているような気がしました。

LARAの碑の前では、香淳皇后の御詩に触れながら、ララ物資についての解説が行われ、戦後の厳しい状況下で日本を支援しようと尽力した日系人の存在について学びました。



LARA 物資を保管した倉庫



戦後の日本を支えてくれた ララ物資

第二次世界大戦後の日本では、みんなが食べるものや着るものに困っていました。そんな日本の人たちにララというグループから食べ物や服、薬、靴や文房具などが届きました。ララは Licensed Agencies for Relief in Asia の頭文字を取った言い方です。アメリカをはじめ、ブラジルやペルーなど様々な国に移住した日系人が中心となって1946年から1952年までララ物資を送ってくれました。ララからのおくりものが最初に届いた横浜の港にはララへの感謝を記した記念碑があります。



研修員の振り返りから

- ◇ 先生から移住とイノベーションのかんけいの話をきかせてもらった後にいろんなことを考えました。私は、日本とメキシコの文化の中からよい事をとって、りょうほうの国の人達におしえてあげたいと思います。
- ◇ 日本人は移住先に到着すると、ぜんぜんちがう文化と言語を体験したと思います。
- ◇ 農業の技術、彼らは自らの文化を持ち込み、移住先の国の文化とゆうごうさせました。その結果は、両方の文化がおたがいにせいちょうしていきました。
- ◇ 今日私たちは海外移住資料館に行きました。日本人がラテンアメリカの農業に貢献していたとは知りませんでした。それからかながわけんちょうというところへ行って、そこでも移民について話されました。
- ◇ 日本のいみんについてまなびました。いろいろなくにいくためにたくさんたいへんなことがあったことをしりました。かぞくのれきしをしるためにたいせつなじゅぎょうです。
- ◇ 今日博物館に行きそれから建物まで歩いて景色を見て、到着してからお互いの国での移民について話、曾祖父がどのようにして日本を出てコロンビアにいて起業したかをはなしました。
- ◇ 日本人は移住して、新しい事をたくさん体験すると思います。

日本文化 ふろしき文化を学ぶ 2025年6月24日(火)

ふろしき体験の授業では、日本の「包む」文化をテーマに、実技を通して日本文化について学びました。研修員の中には、日本に来る前からこの授業を楽しみにしていた方もおり、すでに日常生活で弁当箱を包むなどしてふろしきを活用している方や、事前にふろしきについて自主的に調べていたという声も聞かれました。

授業の後には、「今後はふろしきを常に携帯し、コンビニでの買い物の際にエコバッグとして使ってみたい」と話す研修員もおり、日常生活への活用を意識する姿から、日本の「もったいない文化」の一端を理解する様子が見えかけました。また、研修旅行中の強い日差しの中では、研修員同士が「ハ



ンカチで帽子が作れるよ」と声を掛け合い、学びを実践しながら暑さ対策を試みる様子も見られました。



研修員の振り返りから

- ◇ 私はよくお母さんにふろしきをつかっておべんとうやすいとうをまいたりします。けれどもそれよりもっとふろしきで作れる事にとてもおどろきました。自分の国にかえったらカナダの日本祭りに行ったときにゆかたのおびを作ったり、ゆかたにあうかばんやリボンなどを作りたいです。あとは学校にいくときよくおくれで走るのでかばんがゆれないようにふろしきをまきたいです。
- ◇ 今日のふろしきのクラスでとてもおもしろいことをなりました。カナダにかえってからも使いたいと思います。ともだちにもおしえたいと思います。
- ◇ ふろしきはリサイクルにとっても良いのでその使い方にきょうみがありました。
- ◇ 今日はアイスブレイキングの授業でチームワークの大切さをグループとして学びました。アイスブレイキングに参加したそれぞれのアクティビティーがとてもたのしかったです。
- ◇ ふろしきでかばんのつくりかたをならって、とてもおもしろいとおもったので、ともだちにもふろしきでかばんのつくりかたをおしえてあげたいです。
- ◇ ふろしきがバッグのかたちにかわるとまなびました。ふろしきはとてもすばらしい。私のおかあさんにかえったらおしえてあげたいです。

日本で学ぶ -日系の先輩を迎えて- 2025年6月24日(火)

JICA 日系社会リーダー育成事業ならびに日本財団スカラーシップの留学生 4 名を講師としてお迎えし、日系アイデンティティや将来の夢について考えるアクティビティやワークショップを行いました。また、留学生自身の経験をもとに、日系人向けの留学プログラムについてもお話いただきました。

授業後には、「今後も日本語の勉強を頑張って続けたい」「日本で勉強するという夢ができた」「将来日本で学びたいと思っていたので、今回の授業が今後の勉強のモチベーションになった」など、大変前向きな感想が寄せられました。



研修員の振り返りから

- ◇ きょうのじゅぎょうでは、につけいじんといみんのれきしについてたくさんまなびました。すべてがとてもきょうみぶかかったです。
- ◇ いろんな国で日本文化をすこしみつける事ができます。そのりゆうは研修に来る前はよくわかりませんでした。今日のじゅぎょうで、全部わかるようになりました。
- ◇ いみんの人のつらい思いをちょっとわかったけど、じぶんはそういう事をけいけんするひつようがなかったので、ぜんぶりかいすることはできないとおもう。
- ◇ きょうのじゅぎょうはとてもおもしろかったです。しりょうかんのクイズもよかったです。

中学校体験入学

2025年6月25日(水)~27(金)

事前挨拶 6月20日(金)

それぞれの体験入学先の中学校へ、事前のご挨拶にうかがいました。みんな最初は緊張した様子でしたが、先生から授業の内容や部活動について丁寧に説明していただいたことで、少しずつ緊張が和らいでいったようでした。また、学校までの道順や、バス・電車などの公共交通機関の使い方も学ぶことができ、本番に向けての準備が整ってきました。

自己紹介の練習



6月25日(水)から27日(金)までの3日間、横浜市中区にある大鳥中学校、仲尾台中学校、本牧中学校、港中学校、横浜吉田中学校の5校に分かれて体験入学を行いました。各学校には2~3名ずつの少人数での体験入学となり、初日は皆とても緊張している様子でした。

体験入学の初日には、いつもより早起きし、忘れ物がないかを確認したうえで出発しました。学校への道順は、事前挨拶の際に確認していましたが、当日も研修員同士で再確認しながら登校しました。

なかでも特に緊張していたのは、初めて会うクラスメイトの前で行う日本語での自己紹介だったようです。しかし、事前にしっかりと練習を重ねていたため、「うまくできた」「思ったより緊張しなかった」「新しい友達とスペイン語で話すことができた」など、前向きな声も多く聞かれました。

体験入学を通じて、日本の中学校の様子や自国の学校との違いを実感し、多くの気づきや学びを得ることができました。また、楽しく充実した3日間のなかで、新しい友人との出会いもあり、大変貴重な経験となりました。

今回ご協力いただいた各中学校の先生方、そして温かく迎えてくださったクラスの皆さんに、心より感謝申し上げます。

スピーチコンテスト 6月25日(火)

「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」の中区審査会が、JICA 横浜にて開催されました。今回は、中学校体験の最終日と同日にスピーチコンテストが行われたため、体験先の中学校で出会った先生方やお友だちも、引率者や参加者として会場にいらしており、学校から一緒に会場へ来られた研修員もいました。

各中学校を代表して出場した生徒たちの堂々としたスピーチに混じり、私たちの仲間であるカナダからの研修員も、ゲストスピーカーとして登壇させていただきました。

スピーチのタイトルは『カナダの日系社会と日本をつなぐ架け橋に』。登壇した研修員は「これまでこのような機会を避けてきたけれど、今回は挑戦したい」という強い意志を持って臨みました。連日の研修や体験入学で疲れがたまる中、夜遅くまで練習を重ねてスピーチに望む姿は周囲にも深い印象を与えました。会場からは大きな拍手が送られ、研修員仲間からも「とても上手だった」と温かい言葉が寄せられました。



大島中学校



仲尾台中学校



本牧中学校



港中学校



横浜吉田中学校

研修員の振り返りから

1日目

- ◇ カナダではロッカーがぜんかいにあります。けれども日本では物をクラスにおいたままで。あと日本の教室とカナダの教室がおなじです。私は日本のクラスのデザインがカナダのより好きでした。まどがもっとあってクラスにいるのがいきぐるしくないです。数学は、まだならっていないことをしたけれども、先生は優しかったです。
- ◇ 今朝、学校についてすごくきんちょうしていましたが、みんながやさしかったのでちょっとあんしんしました。日本とカナダの学校のちがいはたとえばきゅうしょくがあって休みじかんもちがうかんじです。
- ◇ 今日の経験は本当に楽しかった。クラスメイトはみんなとても親切で礼儀正しく、そして何よりも驚いたのはクラスメイトたちが自分がやっていたことすべてに驚いていたことです。
- ◇ 私のがっこうはちいさいです。でも日本のがっこうはおおきいです。先生はやさしいです。みなさんはげんきです。わたしの学校にはきゅうしょくはありませんが、日本にはきゅうしょくがあります。
- ◇ とても早くおきて一日中ねむかったです。授業はふつうにかんじたけど全然わかりませんでした。友達がつだってくれてたのしくすごせました。

2日目

- ◇ 今日、私は中学校の体験入学に行ってきたたくさん学びました。理科の授業でせきつい動物について勉強しました。また、動物の分類でテストを受けました。休み時間は学校の廻りをツアーしました。今日はできるだけ新しい友達の名前を覚えるようにがんばりました。明日は最後の日だから授業をちゃんと聞くようにします。
- ◇ 今日は昨日より良かったでした。少し他の生徒たちと一緒に話して、会話をちゃんとできました。もうすぐ中学校の体験入学は終わるんですけど、たのしい経験だと思いました。
- ◇ 日本のせいふくはすごくかわいいと思います。
- ◇ 今日はとても楽しかったです。ぎじゅつとりかのクラスがおもしろかったです。顕微鏡をつかうのがとても楽しかったです。で、一番楽しかったのは柔道の授業でした。
- ◇ 今日はゲームをして、紙飛行機をつくりました。ほうかご、けんどうクラブにいきました。とてもたのしかったです。柔道をしているのですこしむずかしかったのですが、すぐになれました。
- ◇ メキシコとはちがう。きょうしつをじぶんたちでそうじしなければならぬからです。

3日目 -最終日-

- ◇ 日本の学校では先生と生徒がとてもなかがよくて友達のようにでした。そのゆうじょうがクラスをまとめ、授業をたのしく、みんなでうけているってかんじがします。
- ◇ 日本の学校のいいところは体育の授業でプールを使えることです。
- ◇ きょうはきのうよりきぶんがもっとよかった。いちばんおもしろかったことはほんのがくせいたちはじゅぎょうちゅうまじめなままでせんせいにきくことです。
- ◇ 日本のがっこうはとてもせいりされていて、みんなしんせつでした。
- ◇ 今日は学校に行く最後の日でした。私の学校にもここみたいにエアコンがあればいいと思います。また、日本の学校にもカフェテリアがあれば、食べ物で散らかさなくて済むと思います。
- ◇ かつどうはとてもきょういくてきてたのしいです。とてもきにっています。

ホームステイ

2025年6月28日(土)~29日(日)

研修員が楽しみにしていた、1泊2日のホームステイが実施されました。短い時間ではありましたが、研修員が少しでも日本の暮らしを体験できるようにと、ホストファミリーの皆さまには、お出かけや日本文化の体験、夕食づくりのお手伝い、日本の布団で寝ることなど、さまざまな工夫と温かいご配慮をいただきました。

そのおかげで、研修員たちは日本の家庭のぬくもりにふれながら、思い出に残る2日間を過ごすことができました。

心からの歓迎をしてくださったホストファミリーの皆さまに、深く感謝申し上げます。



ファミリーヒストリーをきいてもらいました ～ わたしの中の日本 ～

本研修参加にあたり、事前学習として、自分の家族の移住の歴史についてについて家族にインタビューしたり、身の回りにある「日本探し」を行ってから来日しました。その時まとめたプレゼンテーション資料を見せたり、調べたことをホストファミリーに伝えるなどして、ホストファミリーに自己紹介をしました。



ファミリーヒストリーを知って

自己紹介のスライドと、おじいちゃんにインタビューしたスライドを持ってきてくれてたくさんお話を聞いたのが、私たちにとっても良い勉強になりました。

(ホストファミリーの方からのコメント)



研修員の振り返りから

- ◇ このホームステイは私の人生の中で一番楽しかった最高の経験でした。かまくらの帰りに車の中でも泣きました。またいつか会いたいです。日本の家族といろいろな有名なお寺や神社に行きました。たくさん話して、食べていました。また、写真もめっちゃ撮っていました。戻りたいです。2日間ホストファミリーと一緒に居て、私はとても満足でいっぱい喜びました。私たちは「Sally Mart」でキーチェーンを作ったり、お菓子屋へ行って買い物したり、海に行ってラーメン食べて泳いで、私は本当に嬉しかったです。
- ◇ 今日ホストしてくれた家族と一緒に辛いラーメンを食べに行った後、水族館で魚たちを見ました。帰るときには飲み物を買ってくれました。とても親切にしてくれました。
- ◇ 私は日本のかぞくとすばらしい時間を過ごしました。彼らは私をととてもやさしくしてくれました。
- ◇ うけいれてくれたかぞくとはなしたり、ゆかでねたり、いもうとたちとかくれんぼやことばあてゲームをしたりするのはとてもたのしいけいけんで、ずっとここにのこります。
- ◇ 私は家の家族がとても好きで、彼らは私に日本語をおしえてくれて、コロンビアの文化を学ぶことにととても興味を持ってくれた。
- ◇ 作文を作る時にストレスな気持ちでしたが、私の気持ちやかんがえを人につたえたかったので、がんばってみた。
- ◇ 私はベネズエラの学校や家族についてはなしました。たとえば私のおにいさんのことや、ベネズエラのけいかんやベネズエラのがっこうについて話しました。私はふとんでねました。
- ◇ とても楽しかったです。東京タワーを見に行きました。たくさん歩きましたが、すごく楽しかったです。赤ちゃんがたくさん遊びました。チャイナタウンにも行きました。

研修旅行

2025年7月1日(火)~3日(木)

研修旅行事前学習

6月30日(月)

研修旅行で訪れる予定の大阪城、金閣寺、清水寺について、グループに分かれて調べ学習を行い、それぞれの訪問先について発表しました。

各グループでは、建てられた理由や建設年、建てた人物などのテーマを分担しながら、協力して調べを進めました。

また、研修旅行当日には、事前に調べ学習を行ったグループがガイド役となり、バスの中で訪問先について紹介を行いました。

調べたことを実際の見学につなげることで、より深い理解と学びを得ることができました。



1日目
大阪

大阪城見学

待ちに待った研修旅行の初日がスタートしました！新横浜から新幹線に乗り、約2時間半の移動です。車窓から富士山が見えることを楽しみにしていましたが、この日はあいにくガスがかかって見ることができませんでした。それでも、駅弁を食べたり、おしゃべりを楽しんだりしてい



るうちに、あっという間に大阪に到着しました。

新大阪駅からはバスで移動し、約15分ほどで最初の目的地である大阪城へ向かいました。

近代的なビルが立ち並ぶ大阪の街の中に、大きく堂々とそびえる大阪城が見えてくると、車内には歓声が上がりました。

研修員からは、「大阪城に行ってみたかったので、とても楽しみにしていました。」大阪城の中には、おもしろくて美しい昔の物がたくさんあり、とても感動しました。」という感想も聞かれました。



2日目
京都
 金閣寺、清水寺
 京都伏見稲荷見学

京都では、金閣寺、清水寺、伏見稲荷大社を訪れました。事前に各グループで京都についての調べ学習も行っており、訪問先ではその成果が随所に見られました。特に印象的だったのは、金閣寺の自由見学の際に、担当の研修員が屋根の上にある鳥の装飾に気づき、自発的に日本語でその説明をしていた場面です。研修員仲間や引率者に向けて自然に解説するその姿から、調べ学習の成果がしっかりと生かされていることが伝わってきました。

また、清水寺の調べ学習で「清水の舞台から飛び降りる」という表現を学んだ研修員が、「清水の舞台から飛び降りてはいけません」と仲間に伝えていた場面も印象的でした。言葉の使い方には多少のずれがあるものの、学んだ語句や知識が自然と会話の中に取り入れられており、これらの学習が研修旅行中の理解や気づきを深めるうえで、大きな役割を果たしていたことを実感しました。



3日目
神戸
 海外移住と文化の
 交流センター見学

神戸では、「海外移住と文化の交流センター」を訪問しました。この施設は、かつて「国立移民収容所」として使用されており、南米に移住する人々が出発前の準備のために実際に宿泊していた場所です。建物内には移住資料館があり、ガイドの方から説明を聞いたあと、移住に関するワークシートにも取り組みました。

今回はブラジルへの移住に関する展示が中心で、参加した研修員のルーツとは直接関係のある資料は多くはありませんでしたが、ガイドの説明を真剣に聞き、ワークにも積極的に取り組む姿が見られました。見学後は、かつて移住者たちが歩いた「移住坂」を歩いて、神戸港まで歩きました。港に向かって歩きながら、当時の人々がどのような思いでここを通ったのかに思いをはせる時間となりました。その後、メリケンパークにある「希望の船出」の銅像の前で記念写真を撮影し、移住の歴史についてそれぞれがさまざまな思いを抱いた一日となりました。



研修員の振り返りから

1日目

- ◇ 大阪城の中でいろいろなどうがやぶんなどで大阪城をてきからまもるくふうをみつけました。まず大阪城のまわりにあるたてもものにちいさなあながあり、てきをビルのなかからこうげきできててきにはあいてが見えないようになっています。あとはてきがかんたんにはいってこれないように水のまわりに城ができていくふうなどがあります。
- ◇ 今日は大阪城をおとずれました。私たちはいくつかの防御ぎじゅつをはっけんしました。このテクニックはひじょうにこうかてきで、インテリアにかんたんにとりいれることができます。日本人はちてきでそうぞうてきだと思いました。
- ◇ 私たちは大阪城に行きました。とても面白かったです。豊臣氏の生涯について説明されていました。
- ◇ おおさかじょうはとてもよかったです。おもしろかったです、けどおしろのなかのせつめいがよくわかりませんでした。
- ◇ しろをまもるためにかれらはしろのなかにぶきをほかんしました。
- ◇ とても早くおきて一日中ねむかったです。授業はふつうにかんじたけど全然わかりませんでした。友達がてつだってくれたのしくすごせました。

2日目

- ◇ 歴史を残す工夫は色々な場所で見かけました。まず金閣寺、清水寺や伏見稲荷大社などで人がさわれないように柵ができていく小さいことなどで歴史てきな街並みや物を保存することができます。あとはむかしのスタイルのみせや石でできているゆかやかいだん、むかしふうのたてもなどがのこされていて京都の町なみがとてもきれいでした。こういう小さな工夫で町のくうきや道なみがほかの町とちがいとてもむかしの日本ぽいです。
- ◇ 今日、私たちは京都にありそれぞれの有名なお寺や神社にいきました。(清水寺、ふしみいなりと金かくじ) それでも、京都の回りに歩くだけで昔の感じがします。今日の中で一番楽しかったイベントは清水寺に行って友達とホーリーウォーターを使って手洗って飲んだことです。また、ふしみいなりでおみくじを引いて大吉でとてもよろこびました。京都の歴史はとても興味深いトピックです。
- ◇ ・きんかくじ、きよ水でら、ふしみいなりの3つのばしょをおとずれました。これらのおてらとじんじゃがたてられたもくてき、れきしについてまなぶことができました。寺院のスタイルとデザインがとても気に入りました。
- ◇ 今日は金閣寺に行き、次に清水に行き、最後に伏見いなり大社にいきました。とても疲れた旅だったと思いますが、日本についてもっと知ることができました。

3日目 -最終日-

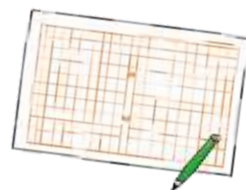
- ◇ 今日は JICA のみんなと一緒に「海外移住と文化交流センター」に行きました。このセンターは 1928 に建てられ、海外に移住する日本人達の為でした。
- ◇ 今日は神戸の移民博物館を訪れました。ラテンアメリカへの日本人の移民について学びました。建物の中はまるで船のようでした。
- ◇ 今日は神戸のいじゅうミュージアムにいきました。とてもきょうみぶかくて、いろいろなことをまなびました。そのあと、むかし（にほん）からいじゅうしたひとたちがあるいたといわれているこうべこうまでわたしたちも 1.5 キロあるきました。あるいているあいだはとてもあつくてたいへんでしたが、いいけいけんになりました。
- ◇ 日本人は海外へ行った時、荷物のようい、パスポートをつくる準備をしました。いまでも、私は日本に来る前に似たような準備をしました。

作文(国語、報告書作成)

2025年7月4日(金)

約3週間にわたる日本での研修を振り返り、いちばん印象に残ったことを作文に残しました。これが研修員みなさんの報告書です。

今回の体験や学習を通して得たたくさんの気づきや自身の成長を言葉にするのはとても難しい作業でしたが、毎日の活動の記録として、【ふりかえりシート】を書いていたので、自分たちの思いや、気持ち、この研修で感じたことなど、とても上手にまとめることができました。国語の授業では、作文の用紙の使い方、そして作文の構成・タイトルの付け方などを教わり書くことができました。下書きができたなら清書を書きました。慣れない日本語で作文を書くことは、研修員にとってはとても大変な活動でしたが、日々の振り返りを通して得た気づきを文字に残し、アウトプットをする大変有意義な機会となりました。



研修員の振り返りから

- ◇ みんなが読みたくなる作文を書くにはタイトルと作文の始めが重要です。タイトルがよくないと人はその文にぜんぜんきょうみをもてなくて文をちらっとも見てくれません。あとは文をちらっと見たとしても始めがおもしろくなかったらあまりきょうみがなくてすぐ読むのをやめちゃうと思います。2.この一か月間色々せいでしやうしてならいました。JICAにきてから文章のうりよくがあがりました。さいしょにきたときは文章力がぜんぜんかけなくこまっていたんですが今はふつうにかけてうれしいです。
- ◇ その作文には、私がこの研修で体験したこと、新しく作った友達や思い出などをきちんと伝えられて嬉しかったです。
- ◇ 今日の作文を書いてたくさんのことを気づきました。例えば、私がせいちょうしたところと学んだことに気づきました。今までJICAで作った思い出について書いて先生とせいとにむけてのかんしゃときもちをはっきりつたえました。
- ◇ 今日は作文を作りました。最初に書き方を教えてもらって、それから書きました。たくさん書いたので疲れましたが、最初に下書きをつくってから完成版をつくりました。でも気に入りました。
- ◇ 私は研修のけいけんについて作文をかきました。かくまえにとしょかんでほかの人の作文を見て、私は4枚半かくことにしました。じかんはかかりましたが、自分のおもいをたくさんかけて、たのしかったです。
- ◇ 今日は日本語で作文しましたが、作文の前に作文のやり方について詳しく教えていただき、作文を強化する素晴らしい練習になったと感じています。

研修修了前日(アンケート、報告会準備) 2025年7月7日(月)

- 研修修了が間近に迫る中、翌日に控えた研修員報告会に向けて、プレゼンテーションの準備を行いました。発表するテーマはグループごとに話し合っで決め、パソコンを使いながら協力してプレゼンテーション資料を作成しました。また、各グループの発表後には、1分間の研修の振り返りスピーチを行うことになっており、そのスピーチの練習にも繰り返し取り組みました。
- アンケートへの回答や報告会での発表を通して、これまでの研修を振り返り、学びや気づきを言葉にしてまとめる大切な時間となりました。自分の思いや気持ちをアウトプットすることで、学びを

より深めることができたように感じられました。

また、帰国に向けて部屋の片づけやパッキングを行い、チェックアウトの準備も進めました。帰国当日のチェックアウト方法や集合時間、ホテルの出発時刻を全員で確認し、預け入れ荷物や手荷物のルールについても再確認しました。日ごろから整理整頓を心がけていたため、帰国準備もスムーズに進みました。みんなでのお出かけができる最後の日ということもあり、荷物の準備なども早めに済ませることができました。

報告会、閉講式、送別会

2025年7月8日(火)

研修員報告会

今回の研修生活での学びや成果について、グループごとにプレゼンテーションを準備し、報告会で発表しました。活動内容を3つのグループに分担し、それぞれが担当した内容を発表しました。

その後は、一人ひとりが「研修に来てから思ったこと・感じたこと・考えたこと」、「研修が終わってからやりたいこと」、「5年後の自分について」などのテーマで、1分間のスピーチを日本語で行いました。



閉講式

閉講式では JICA 中南米部の伊藤圭介部長より、この研修の歴史、多くの先輩たちが日系社会で活躍されていること、みなさんが今後日系社会と日本をつなぐ架け橋となってほしいというエールが研修員におくられました。

続いて、中学校体験入学でお世話になった中学校を代表して、横浜市立横浜吉田中学校の亀井孝洋校長先生よりご挨拶をいただきました。



この日は、校長先生に加え、担任の先生方にもご出席いただき、研修員たちの顔には満面の笑みが広がりました。体験入学がいかに充実したものであったかが、その表情からもよく伝わってきました。

その後、研修員一人ひとりの名前が呼ばれ、修了証書が授与されました。閉講式の最後に、研修員代表がこの研修をふりかえり、スピーチしました。



研修員代表スピーチ



私はこの研修に来てから日本についてのたくさんの事を学びました。日本に来る前には、日本のことを学ぶということだけを考えていましたが、この研修を通し、それと同じくらいに重要なことがあると気づきました。それはチームワークです。今回参加した JICA の研修で、みんなと助け合う事によって、日本の事だけでなく、もっとたくさんの大切な事が学べたと思います。今回のプログラムでは、たくさんの先生方にお世話になりました。いろいろと教えてくれたり、サポートしてくれた先生方、本当にありがとうございました。まりえ先生とさとる先生には、夜の会で次の日に遅れないように時間のチェックをしてくれたり、わからないことがあったときもやさしく教えてくれて、ありがとうございました。さいとう先生は、毎日遠くから来てくれてありがとうございました。先生の通訳はとてもわかりやすく、すごいなと思いました。わたしも先生のように、人の役に立てる通訳ができるようになります。ひらい先生、毎日楽しくてわかりやすい授業をありがとうございました。先生の授業では、たくさんのお話を学ぶことができ、自信にもつながりました。そして、おだ先生とすずき先生。最初の日には空港でみんなを暖かく迎えてくれて、ありがとうございました。ありちゃんの誕生日には飾りを作ってくれたり、見えないところでもいつもみんなのことを気にかけてサポートしてくれて、本当にありがとうございました。そして、JICA のみなさん、このような大変貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。みなさんのおかげで、自分にとって大切な経験や思い出がたくさんできました。この経験をこれからの自分に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。



たった1か月で、私たちは何を学べるのでしょうか。すべてを知ることは、できないかもしれません。でも——世界のことを少し、そして、おたがいのことを少しだけでも、分かり合うことはできると思います。今回の JICA プログラムを通して、私たちは「日本に来た」というだけでなく、「日本で暮らす」という体験をすることができました。ローマ字読みに変換してくれませんか？人の話をよく聞くこと。目で見て感じる。わからないことは、思い切って質問してみる。そうやって、日本人たちの目線で日々をすごしました。文化は、毎日の小さなことの中にあると気づきました。たとえば、バランスよく、心をこめて作られたごはん。みんなで協力して取り組む仕事のしかた。そして、ルールをしっかりと守ること。そういった日常の中に、日本の文化がつまっていると感じました。



送別会

閉講式後、弊会の理事長 田中克之 に乾杯のご挨拶をいただきました。研修員、中学校の先生方、JICA の職員のみなさんと修了を祝いました。

お世話になった先生方ほか、研修に関わってくださったすべての方への感謝を込めて、みんなで選び、毎晩練習をしてきた『365 日の紙飛行機』を合唱しました。明るい曲ではありましたが、歌詞に想いがかさなって涙があふれました。



日本、そして研修員の仲間と離れるのは寂しいことですが、みなさんは、それぞれの帰りを心待ちにしている家族のもとへ無事に帰国すること、そしてこの研修で学んだことを自国の人々に伝えていくという思いを胸に、研修の締めくくりとして閉講パーティに臨みました。パーティでは、JICA 横浜センターの大野所長、外務省中南米局中南米日系社会連携推進室長の中村安志様より温かい閉会のご挨拶をいただき、研修の最後にふさわしいひとときとなりました。24 日間にわたり、研修を支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



帰国

2025年7月9日(水)

本研修を通して、初めはどこかよそよそしかった 13 人でしたが、24 日間の研修生活で結んだ強い絆を胸に、それぞれの国へと帰路につきました。国や地域、言語が違ってもつながれる・分かり合えるということ、身をもって知った研修員たちがリードしていく、これからの日系社会が楽しみです。



5. 引率者の所感

ドミニカ共和国 サントドミンゴ

松田 まりえ

ベネズエラ 日本語学校教師会

中田 悟

カナダ、メキシコ、コロンビア、ドミニカ共和国、ベネズエラから集結する研修生13名の共通点は「日系人」であること。それ以外は普段生活で使用する言語、文化、日本語レベルも異なることから、自然と英語圏のカナダとスペイン語圏の中米カリブ国と仲間が分かれて研修がスタートし、最初の難関、仲間を分けてしまった壁をどう壊せるか、そして研修プログラム中にそれぞれの研修生がどんなドラマを生み出してくれるかととても楽しみでした。

研修2日目から早速グループ活動が開始され、3つにそれぞれ分かれたグループのネーミングを一緒に考えたり、そしてアイスブレイクで体を動かしながらペアやグループでゲームをしたりして、仲間を分けていた壁が少しずつなくなりました。また、それぞれの得意なものをうまく生かし、力を合わせてグループ学習や活動に取り組む姿が見られ、気が付けば「13人みんなで寿司を食べに行きます。」「みんなで誕生日をお祝いしたいです。」と一緒に行動することが多くなりました。

慣れない環境の中、日本語やコミュニケーションがうまくできるか不安で、中学校体験入学やホームステイに行くことが嫌だと言っていた研修生も少なくありませんでした。しかし、実際各プログラムが始まってみると、「日本の学校のルールは厳しいけど、色んな授業や活動があって面白い！クラスの友達も親切で、また学校に行きたい！」と言うようになり、不安はいつの間にかなくなり、色んなことに挑戦する姿を見ていた引率者の私たちも「研修生には負けてられないね。」と刺激され、研修生によって書かれたその日の出来事や感じたことを読んで、日本語の修正だけでなく、研修生の声に答えたいと思い、私たち引率者も感想を書くようになりました。

大阪、京都、神戸での研修旅行では歴史的に有名な大阪城、金閣寺、清水寺などを見学しました。暑く、たくさん観光客がいる中の見学は大変でしたが、古く、大きい木造の建造物を目の当たりにし、日本の歴史の素晴らしさに直接触れることができ感動しました。神戸市立海外移住と文化の交流センターでのアクティビティでは、展示物の説明を聞いてノートにメモし、分からない問題があると、協力して答えを探したり、自国の日系社会の情報を見つけて写真をとったりするなど、自分の家族がどうしてどのように移住したのかをもっと詳しく知ることができました。

来日前、ほとんどの研修生は「日系社会次世代育成研修」で日本語、日本文化、そして日系社会のことについて学べるのが人生の中でどれだけ貴重な体験となるか、あまり考えていなかったと思います。ルーツ、自分の日系社会、日本語レベル、皆それぞれ異なる中、「日系人」という共通点から、この研修に参加できたことで、日本と自分が生まれ育っている国、また一緒に参加している研修生の国の文化や慣習も学び、そして日本で活躍する先輩の日系人

の姿を直接見ることで、「日系人」であることがどれだけ特別で、また将来多くの可能性を秘めていることに気づくことができたと思います。

また、日本語や課題が難しくできないところは助け合い、誰かが悩んだり、悲しんでいる時は励まし合ったり、そして好きな日本文化や趣味など一緒に楽しむことができる友達がこの24日間でできたことは、研修生の一生の思い出に残る素晴らしい体験になったと研修の閉校式、また帰国日にみんなの涙を見て確信しました。それと同時に、各国の日系社会と日本を繋ぐ大きな架け橋として活躍してくれることを期待し、私たち大人も研修生に負けないよう、引き続き日系社会を基点に、自国と日本の発展に貢献できるよう次世代の人々と手を取り合って頑張りたいと思い、共に学んだ24日間となりました。

最後に、移住学習、日本文化・習慣体験、ホームステイといった充実した内容の研修を準備・実施していただきましたJICA、海外日系人協会、中学校、ホームステイのご家族、研修に関わっていただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。

6. 総評

明治元年(1868年)、サトウキビプランテーションの労働者としてハワイへ渡ったことから始まる日本人の海外移住は約150年の歴史を有しています。その間、米大陸各国、各地域の日系社会では日本語学校を中心にコミュニティを形成し、今日まで継続してきています。しかしながら、世代が進むにつれ、日本語学校に通う日系子弟の減少、日系コミュニティへの帰属意識の低下や日系アイデンティティの希薄化といった問題が顕在化し、日本とのつながりもだんだんと弱くなってきているのが現状です。

そのような現状に鑑み、本研修は、次世代の日系社会を担う人材育成の一環として、「日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本文化、習慣等を学んでもらい、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること」を目的としています。

本研修は、次世代の日系社会を担う若者たちが、日本への理解を深め、日系アイデンティティの涵養・強化を目的に実施されました。参加者は移住学習を通して、自身の家族の歴史やルーツをたどり、祖先への敬意や当時の移住者への思いに触れました。さらに、日本の伝統文化や現代社会の状況を知るため、東京、神奈川の様々な場所を訪問しました。

中学校での体験入学では同世代の日本人と交流し、ホームステイでは日本の暮らしを肌で感じました。こうした経験を通じて、日本と自国、そして日本人とのつながりを意識する活動を計画しました。

また、日本での滞在や研修員同士の共同生活を通じて、自国や他国の日系社会と日本との違いや、それぞれの魅力を改めて知る機会にもなりました。参加者たちは、両国の日系社会の未来のために自分たちができることを考える時間を持つ機会になったことを期待します。

カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラから集まった13名の研修員は、【日系】の共通点を持ちますが、言語や文化、生活習慣の違いを超えて、コミュニケーションの大切さを学び合いました。研修開始当初はどこかぎこちなく、緊張していた研修員も、日本語、英語、スペイン語を使いながら、互いに理解を深め、自国・他国の日系コミュニティの状況や日系人としての共通点、価値観について語り合い、情報交換を行い、絆を深めました。

研修を終えての今後の展望としては、この研修で生まれた交流を大切に、日系社会と日本、そして、それぞれの国の日系社会をつなぐ若い世代のみなさんの繋がりが更に育つことを期待しております。参加者たちは、この経験で得た学びや気づきを家族や友人、自国の日系コミュニティへ伝えていこうと意欲にあふれています。日系人としての強みや可能性を生かし、これからも国や地域を越えたネットワークを広げ、南米と日本をつなぐ架け橋として活躍してくれることを願っています。

2025 年度

「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」

募集要項

2025 年 1 月



独立行政法人国際協力機構（J I C A）

目次

【研修の沿革および目的】	1
【研修員】	1
1. 対象国および受入計画数	1
2. 研修概要	1
3. 資格要件	2
4. 所要経費	3
5. 応募書類	3
6. 応募書類の提出締切と提出方法	6
7. 受入決定	6
8. 研修員の資格取り消し	6
9. 施設利用	6
10. その他	6
【引率者】	7
1. 引率者の招へい	7
2. 2025年度引率者選出国	7
3. 引率者資格要件	7
4. 所要経費	8
5. 応募書類	8
6. 応募書類の提出締切	10
【注意事項（研修員・引率者・ご家族の方）】	11
別紙1 研修員 応募書類様式	12
別紙2 引率者 応募書類様式	12
別紙3 研修員・引率者共通 応募書類様式	12

2025 年度
「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」
募集要項

【研修の沿革および目的】

本研修は、中南米地域等への移住者の定着・安定のために移住者子孫教育として 1987（昭和 62）年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012（平成 24）年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015（平成 27）年度からは「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」として実施しています。本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを改めて意識することを目的としています。さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

【研修員】

1. 対象国および受入計画数

対象国：10 カ国

受入計画数：49 名（+引率者 5 名）

受入		対象国	人数
第 1 陣	5 カ国 13 名 (+引率者 2)	カナダ	4 名
		メキシコ	2 名
		ドミニカ共和国	5 名
		コロンビア	1 名
		ベネズエラ	1 名
第 2 陣	5 カ国 36 名 (+引率者 3)	ブラジル	20 名
		ペルー	4 名
		ボリビア	3 名
		パラグアイ	3 名
		アルゼンチン	6 名

2. 研修概要

	単元目標	研修内容（予定）
1.	日本人の海外移住の歴史の理解、また自分のルーツを学ぶことを通じて、日系人としてのアイデンティティを涵養する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外移住資料館等の見学。 ・ 移住に関する講義、ワークショップ ・ 2泊3日の研修旅行。 ・ 各研修員のルーツを探る。

		・移住学習につながる事前課題等。
2.	日本の文化、習慣を学び日本に対する理解を深めることを通じて、日系人としてのアイデンティティを涵養する。	・日本理解に関する講義、ワークショップ、視察見学等。 ・中学校体験入学で日本の中学生との交流、中学校生活（授業、部活動等）の体験。 ・ホームステイで日本の家庭生活を体験する。 ・2泊3日の研修旅行。 ・日系留学生や日系社会研修員との交流会。
3.	各研修員の役割分担、グループワークによる他国研修員との協力を通じた相互理解・自立促進。	・研修員同士の交流プログラム ・研修期間中全般を通じた班活動、等々
4.	各国日系社会での継承語教育の振興促進。将来の日系社会を担う人材を育成する。	・プレゼンテーション方法の指導、実践。 ・研修員の作文作成、発表報告会。

【重要】実際の研修内容が上記から変更となる可能性があります。

(2) 研修期間（予定）：24日間

第1陣：2025年6月16日（月）から2025年7月9日（水）

第2陣：2026年1月13日（火）から2026年2月5日（木）

(3) 使用言語

日本語

（講義等で通訳が必要となる場合、1陣はスペイン語、2陣はスペイン語、ポルトガル語のいずれかの通訳を配置予定です。）

3. 資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

(1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫（※）であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※本事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。

(2) 研修参加時点での年齢が日本の中学生相当（12歳以上、15歳以下）であること。

(3) 現地の日系団体が運営する日本語学校に在籍し、成績優秀、品行方正かつ将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質があると認められること。

(4) 自分のルーツや日本に対する理解を深める強い意志があること。

(5) 心身ともに健康であり、本邦での集団生活に耐えられること。

(6) 来日から帰国まで JICA 指定の全日程に参加できること。

(7) 親権者の同意が得られること。

※共同親権が法制化されている国においては、全親権者の同意が得られること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費を JICA が負担します。(ただし、渡航便は原則、JICA の指定する便での渡航とします。)

(1) 指定する経路の往復航空運賃(ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料も JICA が負担します。)

(2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費

(3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費

※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。

※6 時間未満の滞在は対象外です。

(4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中生活費(食費)は、規定に応じて来日後に日本円で支給します。

※日をまたがない 6 時間以上の第三国滞在は対象外です。

〈支給額〉

1) 本邦滞在中 生活費 2,200 円/日 ※朝食及び夕食費として
(ただし、現物支給されない日のみ現金支給とする。)

2) 第三国滞在中 生活費 4,000 円/日 ※朝食費、昼食費及び夕食費として

(4) 宿泊施設の利用料金

(5) 海外旅行保険料

原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。

※本邦到着後、保険証(メディカルカード)を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

〈留意事項〉

各国の国内線利用区間は保険対象外です。必要な場合は各自で加入してください。

(6) 所外研修、中学校体験入学、ホームステイ、研修旅行のために係る横浜での滞在先と訪問先間の往復旅費

(7) 研修先に対する研修経費

5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2025年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・JICA様式を使用してください。

(1) JICA様式

1) 推薦書

(様式第1号)

2) 身上書

(様式第2号)

- ・パソコン入力可。

- ・氏名（日本語）：

この書類に書かれた氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、査証手続き書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

- ・氏名（アルファベット）：

この書類に書かれた氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。スペル、名字と名前の順番、ミドルネームの有無にも注意して記入してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、搭乗できなくなります。

※旅券をこれから申請する方は、必ず旅券申請する氏名表記で記載してください。

旅券と査証、航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

- ・国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。詳細についてはJICA事務所からの指示に従ってください。

3) 親権者の誓約・同意書

(様式第3号)

- ・サインは必ず親権者に書いてもらってください。

4) 病歴申告書

(様式第4号)

- ・パソコン入力可（署名は自筆）

・JICA様式による自己申告です。病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。

- ・提出前に未回答項目や記入漏れがないか、確認してください。

・既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。

・現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の

診断書も提出してください。

- ・ 既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。
- ・ 研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費は海外旅行保険適用外のため全額自己負担となります。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

・ 応募時以降に健康状態に変更が生じた場合は応募した各事務所へ必ず連絡してください。

※記入事項に虚偽があると判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

5) 肖像権および個人情報使用承諾書

(様式第8号)

本研修期間中、JICAが契約するカメラマン又は委託先が、広報（各種報告書含む）として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、署名してください。研修員用と親権者用があります。

(2) 写真2枚（データ可）

- ・ 最近6ヶ月以内に撮影したもの。（縦4.5cm×横3.5cm、上半身、正面、脱帽、裏面に氏名・国名を記入）

※1枚は身上書に貼付け、もう1枚はデータで他の応募書類とともに提出してください。

(3) 作文（日本語）

- ・ 400字詰原稿用紙3枚以内（1000字程度）。課題はJICA在外事務所が指定します。

※応募者本人が自筆した作文を提出してください。

(4) 旅券の写し

5. (1) 2) 身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

①既に旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページを提出してください。

②旅券を所有していない場合

JICAからの可否の通知を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを開始してください。また、5. (1) 2) 身上書に記載した氏名表記を至急ご連絡ください。

※合否に関わらず、旅券取得経費については自己負担です。

(注) 提供された個人情報は、①合否の判定、②研修受入の手続き、③事業実績の取りまとめ等に利用します。

6. 応募書類の提出締切と提出方法

(1) 応募書類の提出締切

在外事務所の選考スケジュールに従い提出してください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

7. 受入決定

応募書類を基に JICA 横浜にて最終選考を行い、合格通知を発出します。その後、外務省の短期滞在査証発給審査を行います。

8. 研修員の資格取り消し

研修員が次の事項に該当する場合、JICA はその資格を取り消すことがありますので、以下については、特に注意してください。

- 1) JICA の規則、指示及び決定に従わなかったとき
- 2) 研修先の規則に違反した場合
- 3) 日本国の法令に違反した場合
- 4) 本人の故意、重大な過失又は怠慢等により、研修を継続することが困難と認められるとき
- 5) 本人の都合により研修を中断したとき
- 6) 心身の障害、傷病等のために研修を継続することが困難と認められるとき
- 7) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- 8) その他 JICA が止むを得ないと認める事由があるとき

9. 施設利用

本研修プログラムは JICA 横浜の周辺施設にて実施されることがあります。

10. その他

感染症や災害発生等の影響により、研修プログラムの変更、または来日中止となることがあります。

【引率者】

1. 引率者の招へい

渡航中・研修中の研修員の生活指導、安全・健康管理その他必要な指導のため、引率者を招へいします。

(1) 引率者の主な役割

- ・ 往路・復路における研修員の引率
- ・ 研修員の健康等、生活面に係る指導及び対応
- ・ 研修プログラムへの同行及び実施補助
- ・ 引率者最終報告会の実施
- ・ 研修員宿泊フロアの夜間巡回による安全管理・指導
- ・ けがや急病などの一次受付、及び二次対応者への連絡
- ・ 研修員の心身の健康管理
- ・ 休日の研修員外出時の親族への引き渡し
- ・ 朝、研修員の確認
- ・ その他、研修員の健康・安全管理と研修実施における必要業務

※研修員の年齢に応じた対応が必要になります。

※来日前（オンライン）、来日後に引率者へのブリーフィングを実施します。

※研修プログラムの引率者の役割分担は引率者を対象とする来日前（オンライン）ブリーフィングで説明致します。

2. 2025 年度引率者選出国

1) 第 1 陣

- ・ 引率者 2 名・・・スペイン語圏の日本語学校教員や日系社会より選出

2) 第 2 陣

- ・ 引率者 3 名・・・ブラジルの日本語学校教員や日系社会から 1 名、
スペイン語圏の日本語学校教員や日系社会から 2 名

3. 引率者資格要件

- 1) 満 20 歳以上で、日本語学校での勤務歴 2 年以上ある日本語学校教員または日系団体会員、JICA 帰国研修員であること。日本語学校で研修員と同年齢のクラスを担当または日常的に日系社会で研修員と同世代の子弟と接している方が望ましく、優先します。（研修参加子弟の保護者は対象外）
- 2) 日本語能力試験 N2 程度以上で研修員とスペイン語又はポルトガル語で意思疎通ができること。

3) 健康で責任をもって業務を遂行できること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費を JICA が負担します

- (1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料も JICA が負担。）
- (2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費
- (3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費
※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。
※乗継時間 6 時間未満の滞在は対象外です。
- (4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中の生活費等は、規定に応じて来日時に日本円で支給します。
※日をまたがない 6 時間以上の第三国滞在は対象外です。

〈支給額〉

- 1) 本邦滞在中 生活費： 5,000 円/日（食事の現物支給がない日。）

【内訳】 食費 1,100 円×3 食＋雑費 1,700 円

※現物支給がある日は、その回数に応じて差し引いて支給されます。

- 2) 第三国滞在中 生活費： 4,000 円/日（朝食費、昼食費及び夕食費として）
※航空会社が手配したホテルに宿泊する場合、食事が提供されることがあります。その際は生活費が支給されないことがあります。

- (4) 宿泊施設の利用料金
- (5) 海外旅行保険料（往路・研修期間・帰路に係る期間。）
※原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。但し、各国の国内移動区間は対象外です。
本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。
研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。
但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。
- (6) 所外研修や研修旅行等に係る横浜での滞在先と訪問先の間の日復旅費
- (7) 研修先に対する研修経費

5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2025 年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・様式は、本実施要領とともに配布された様式を使用してください。
※改訂されているため、過去の様式は使用しないでください。

(1) JICA 様式

1) 身上書 (引率者用)

(様式第 5 号)

- ・ パソコン入力可。
- ・ 氏名 (日本語) :

この書類に記載の氏名表記 (漢字・ひらがな・カタカナ) にしたがって、短期滞在査証の申請書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、**渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。**漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

- ・ 氏名 (アルファベット) :

この書類に記載の氏名表記 (アルファベット) にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、**渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。**

※旅券をこれから申請する方は、**必ず旅券申請書に記入する氏名表記で記載してください。**旅券と航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

- ・ 国籍 : 渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。

詳細については JICA 事務所からの指示に従ってください。

2) 小論文 (日本語または英語)

(様式第 6 号)

- ・ パソコン入力可

※様式に記載されているテーマについて執筆してください。

3) 写真 2 枚 (データ可)

- ・ 最近 6 ヶ月以内に撮影したもの。(縦 4.5cm×横 3.5cm、上半身、正面、脱帽)
- ※1枚は身上書に貼付けてください。もう1枚はデータで他の応募書類とともに締切日までに提出してください。

4) 誓約書 (引率者用)

(様式第 7 号)

5) 病歴申告書

(様式第 4 号)

- ・ パソコン入力可 (署名は自筆)
- ・ 既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。
- ・ 現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の診断書も提出してください。
- ・ 既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。
- ・ 研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費

は海外旅行保険適用外のため全額自己負担となります。
※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。
研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。
但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

6) 肖像権および個人情報使用承諾書 (様式第8号)

本研修期間中、JICAが契約するカメラマン又は委託先が、広報（各種報告書含む）用として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、署名してください。

(2) 旅券の写し

5. (1) 1) 身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

①既に引率者が旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページの写しを取り付けてください。

②引率者が旅券を所有していない場合

JICA 横浜からの受け入れ回答を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを始めてください。また、5. (1) 1) 身上書に記載した氏名表記を至急ご連絡ください。

※旅券取得経費については自己負担となります。

6. 応募書類の提出締切

(1) 応募書類の提出締切

提出締切日は、貴国の選考スケジュールに従ってください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指示に従ってください。

【注意事項（研修員・引率者・ご家族の方）】

1. 研修参加にあたって

- (1) 感染症や災害発生等により、研修プログラムの変更または来日が中止となる場合があります。
- (2) フライトスケジュールは JICA 在外事務所が決定の上、合格者に連絡します。
- (3) 滞在延長や帰路変更は、研修員/引率者の自己負担であっても認められません。
研修終了後は JICA が定めるスケジュールで帰国してください。
- (4) 原則として、往路・復路とも研修員が集合し、集団で渡航します。
- (5) 家族の同伴は認められません。

2. 渡航準備

(1) 旅券

旅券を所持していない研修員と引率者は、早急に申請手続きを開始してください。
合格の連絡を受けてから旅券取得手続きを開始すると、査証取得が間に合わないおそれがあります。

※日本旅券を申請する場合には、戸籍謄本の取得等に時間を要します。

(2) 査証

・日本以外の旅券で渡航する場合

※査証は、日本の外務省で審査が行われた後、居住国の日本領事館に申請し、発給されます。国によっては短期滞在査証が免除される場合がありますので、JICA 事務所の指示に従ってください。

※身上書には、渡航時に使用する旅券に記載の国籍を記載してください。

(3) その他必要書類

- ・日本旅券で渡航する研修員・引率者については、居住国における身分証明書等、在住国に居住していることを示す書類等を、念のため持参してください。（原本の持参が難しい場合には写しを持参してください。）
- ・居住国や経由する国によって査証以外の書類（未成年者の渡航に対する親権者の承諾書等）が要求されることがあります。

帰国時、未成年の日本人が片道航空券で居住国に渡航するようにも見えるため、帰路の空港でのチェックイン時に航空会社から当該研修員・引率者が貴国に居住している（永住権・定住権等がある）ことを示す書類の提示を求められるケースがあります。

3. 滞在中及び帰国時

(1) 持参物

- ・風邪薬や頭痛、腹痛の薬（鎮静剤）などは、普段から飲み慣れたものを持参ください。

(2) 施設利用

- ・JICA 横浜の宿泊棟が利用できない場合、周辺の宿泊施設に宿泊します。
- ・JICA 横浜のセミナールームが利用できない場合、研修プログラムは周辺施設で実施します。

(3) 体験入学

中学校体験入学の際、受入校の高校受験準備のため3年生（15歳相当）のクラスでは研修員を受け入れられないことが多く、15歳の研修員であっても中学1～2年（13～14歳相当）のクラスに入ることがあります。

以上

別紙1 研修員 応募書類様式

- ・推薦書（様式第1号）
- ・身上書（様式第2号）
- ・親権者の誓約・同意書（様式第3号）

別紙2 引率者 応募書類様式

- ・身上書（様式第5号）
- ・小論文（様式第6号）
- ・誓約書（様式第7号）

別紙3 研修員・引率者共通 応募書類様式

- ・病歴申告書（様式4号）
- ・肖像権および個人情報使用承諾書（様式8）